

## 2019 年度立命館附属校 教師塾 X

—1 年の振り返りと今後の抱負—

附属校教育研究・研修センター

2月25日(火)朱雀キャンパスにおいて、附属校教育研究・研修センター主催の教師塾Xを実施した。今年度教師塾最終回として、初任者としてこの1年を振り返り、今後の抱負について各受講者から発表し、参加いただいた附属校執行部及び一貫教育部職員から助言を受けるという研修であった。参加者は15名(立命館中高2名、立命館小1名、立命館宇治中高2名、立命館慶祥中高3名、立命館守山中高7人)であった。

### 《研修記録》

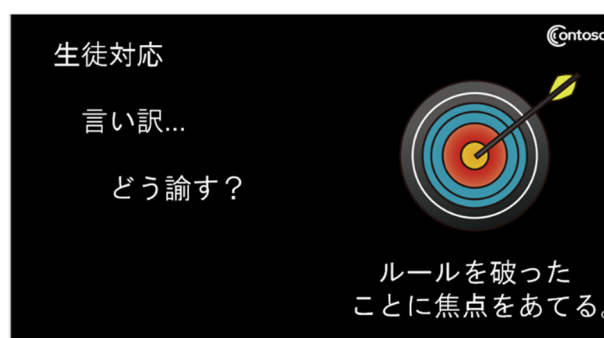
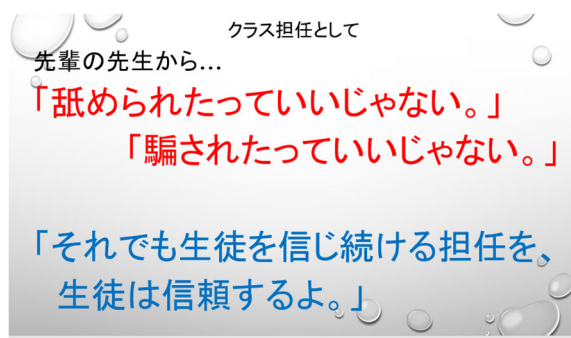
テーマは「今年度の振り返りとこれからの抱負」とし、1人7分間の発表であった。

すべての発表が素晴らしく、発表を通して参加者全員が多くのことを学ぶことができた。受講者からの発表後、参加いただいた附属校執行部及び一貫教育部から各受講者への助言とエールが送られた。

各受講生に送られたエールの抜粋

- ・有能な聞き手としての担任の役割を大切にしてほしい。
- ・これからは子ども同士が教え合うことの効果を高めていきたい。
- ・他から学ぶ姿勢は大切。教員の世界から他業種へも視野を広げて行ってほしい
- ・学校は変化していかなければならない。新しいシステムを前向きに捉えて行ってほしい。
- ・学級通信を担任の想いを伝える有効な手段。目的をもって続けていくことが大切。
- ・「分かりやすさ」は容易さにつながることもある。目的を意識することを忘れずに。
- ・リーダーは人との関わりの中で育つ。その仕組みをつくるのが教員だ。
- ・実践する度に作ったものを崩して、そこから自分のオリジナリティを加えていくといい。
- ・教育は(意図をもって)作為的に行っていくもの。それを楽しんで行ってほしい。

「プレゼンの抜粋」



強いリーダーだけでなく  
より良い仕組み



## 《受講者の感想》

A

今回の研修を通し、改めて新任として私と同じように皆さんがご苦労されていることを知り、不思議と安心できるような感覚を覚えました。特に長岡京は今年度の採用者が少ないため、自分だけがうまくいっていないような錯覚に陥ることが多々あります。だからこそ、お互いの苦労を共有できることが、これほどまでにありがたいと感じたことはありません。附属校執行部の先生をはじめ、今回アドバイスいただいたことを胸に、次回お会いできるときはまた一つ成長した姿を見せなければならないと決意できるような研修となりました。一年間、ありがとうございました。

B

受講生の振り返りや抱負を聞くことで、様々刺激を受けることができました。特に、授業、クラブにおいてもっとチャレンジをしていくこと、学外の研究会に積極的に参加していくことを次年度の目標にしたいと思いました。また、クラス経営でも授業でも、今年度は様々な先輩教員の視線や声に「揺れる」1年でしたが、「何のために」やるのか、「生徒のために」なることかをぶらさずに次年度を過ごしたいと思います。1年間本当にありがとうございました。

C

立命館初任の1年が終わった。これだけ早く感じた1年は今までになかった。今や「うちの生徒」というと、前任校の紺色のブレザーではなく、緑色のブレザーの生徒たちがぱっと頭に浮かぶようになった。いよいよ立命館で働く準備運動が終わったという感じだ。

今日一堂に会した同期の先生たちの顔と名前もようやく一致し、これから本格的に働くにあたって頼りにできる存在であると改めて確信した。

二度目の初任者研修は、公立と私学の違いを実感する非常に面白いものであった。公立の初任研で印象深かったのは、京都府北部の農芸高校、加悦谷(かやだに)高校での授業参観、南山城支援学校で授業参加したことである。過疎地域での教育、障がいのある子どもたちへの教育の現場へ足を踏み入れることができるのは公立でしかできない経験だった。今年の研修は、企業や附属校、大学のさまざまな人が講師を務めた。教員の自主的な研修に対してセンターが「強力」に協力してくださった(今後も協力いただける)。この二つは私学ならではの、だと思う。

今日、多くの先生方が、研究会に所属して教科指導力の向上を図っていることを知った。やはり、「学び続けること」が教員にとって最も重要なことだ。職歴や年齢の差はあれど、真摯に学び続ける同期を持てたことを大変嬉しく思った。これから自分の学びの世界が広がっていく予感がする。大変幸せな心持で研修を終えた。

1年間大変お世話になりました。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

D

最後の教師塾は私自身この1年を振り返ることができるとても良い機会だった。それと同時に附属校の先生方の振り返りや抱負を聞くことができ、刺激を受けることもできた。感想というよりは振り返りになってしまうが、みなさんのプレゼンテーションを聞き、この1年はある意味インプットが少ない1年だったと感じた。日々の授業も多かったこともあり、研究会等になかなかいけず、現場のみでの学びに偏ってしまったなと反省した。来年度は時間をつくり、IB関係含めた様々な研究会に参加し、経験と知識をつけながら教科指導や生徒指導をしていきたいと強く感じた。

E

他校の先生方の取り組みを聞くことができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。特に印象に残ったことは、他校の先生がおっしゃっていた生徒の「グラデーション」を意識した指導というお話です。個性の尊重ばかりが叫ばれていますが、生徒の個性を捉える1つのヒントをいただくことができました。今回の教師塾でお会いした先生方とのご縁を大切にしながら、これからの教員人生を豊かにしていきたいと思います。1年間、ありがとうございました。

F

他校の先生が何を経験し、どう実践されているのか知ることがほとんどないので非常に良い機会となりました。校種は異なっても一人ひとりの先生方が、日々何を目標に教育活動を行って、工夫しているのか、勉強になると同時に勇気づけられました。来年度は自ら学ぶ場をつくり、勉強をやめることなく、学んだことを実践に活かすことを繰り返すことが肝要だと皆さんの発表を聞いて力をもらいました。また、素直に学びを受け取る人が視野を広げ、成長できるのだと実感した研修でした。

G

先日は貴重な勉強の機会をいただき、ありがとうございました。久しぶりに、京都に行って直接たくさんの先生のご活躍を聞くことが、私にとってとても良い刺激になりました。授業法や、ホームルーム経営の手法、生徒指導の在り方などたくさん学ぶことがあったのですが、何より先生方の教師としての心の在り方に感銘を受けました。自分の教師経験を決しておごらず、何でも学んでいこうとするハングリー精神や、何事にも挑戦し失敗さえもチャンスにするチャレンジ精神のどちらも持ち合わせている姿が非常に素敵でした。

今年は教員1年目として、失敗と学びを繰り返し続けた年でした。来年度は、失敗から得た学びを磨くとともに、新たなことを学び挑戦する精神を忘れずに取り組んでいきたいと思います。この1年間、貴重な学びの機会を本当にありがとうございました。

H

どの同期の教員も毎日悩んで日々試行錯誤していたのだと改めて感じました。生徒指導や授業、部活動やクラス、様々な問題があると思いました。しかし、発表を聞いて分かったことが一つだけあります。それはどの教員も生徒のことを思って日々考えているということです。考え方は違えど、その子のために、今後の育成のために取り組んでいるのだと改めて感じました。どの教員もやりがいを感じているのではないかと思います。その思いが時間オーバーにつながったのだと思っています。

1年間お世話になりました。座学よりもグループワークやディスカッションなどを増やしていただけるとより、同期の団結も上がり、よりよい研修になると思います。1年間本当にありがとうございました。

I

皆さんの感想を聞く中で、この1年間にたくさんの経験をされ、教師塾で学ばれたことを活かしてこられたのだとよく分かりました。私自身、教師塾に参加できていなければ、様々な出来事にどう対処して良いか悩んでいたと思います。1年を振り返ると、特に「ホウレンソウ」の大切さを実感しています。周りの人たちに支えて頂き、前に進むことが出来ました。来年度は新任ではなくなりますが、いつまでも初心を忘れず学び、周りの人と協力して、生徒のために何が必要かを考えた教育を行っていききたいと思います。

本当に1年間有り難うございました。

J

研修では、各附属校教員の1年の学びや実践、工夫や生徒に対する想いが感じられ共に働けることに対する感謝と、業務に活用できるアイデアを頂いた。特に主体性を養うための教員の仕掛けは教科関係なく活用できると感じた。附属校が抱える課題は様々であるが、多様化する生徒や保護者のニーズに答えながらも発想力豊かな展開ができるようこれからも研鑽を積みたい。ありがとうございました。

K

今回、教師塾に参加して勉強になりました。私の発表は7分のはずが、10分を超えていました。申し訳ありません。皆さんの発表を聞き、本当に貴重な時間だと思いました。教員としてのモチベーションが上がりました。特に印象的なのは、他校の先生が研修としてスクールカウンセラーの話を知りたいとおっしゃったことです。私も今年度何度かHRの生徒のことで保健室の先生とスクールカウンセラーにお世話になりましたので、そのような研修に参加できたらいいと思いました。山村先生の発表もとても印象的でした。最後に寺田先生のコメントを受けて、来年度、チーム担任制を成功させるように動かないといけないと思いました。

L

1年間ありがとうございました。今回の発表を聞いて、より一層今後学校教育の発展に貢献していきたいと実感いたしました。教科指導から生徒指導まで様々な面で参考にさせていただきました。何事も実践を重ねていくことが大切であると改めて実感しました。教員が必要でなくなってくると言われている時代に、生徒の立場にたって教育活動をし、自分には何ができるのがきちんと見直していきたいと思います。

M

まず、今回の教師塾に参加するにあたり、発表資料を作成することで、自らの授業や学校教育をじっくりと振り返る機会となった。その機会は今後の教育を考えていく上でも大変有意義な時間となった。

当日には自らの実践の報告だけでなく、他の新任附属校教員の悩みや、実践も知ることができ、今後の教育活動を改善する上でも大いに参考となった。また、様々な分野で活躍されている話も聞くことができ、刺激及び励みにもなる研修であった。今後は研修という形では同期一同を会し集まることはなくなったが、今後も互いに切磋琢磨したい。また、今後お互いに協力したいと感じた。

N

この一年間を振り返りながら、各先生方が同のような課題を抱えて、それを改善しようと取り組んでいるのかを聞いて、とても良い刺激を受けることができました。また、採用同期の仲間が常にこのような課題と目標を立てながら自己研鑽をしている姿勢を、これからはずっと維持していかなければ社会には対応できないのかなという使命感も感じることができました。このような教師塾を企画してくださった先生方に感謝申し上げます。一年間、ありがとうございました。これからもどうぞよろしく願いいたします。

O

教師塾では、普段お話を聞くことができない方から話を聞くことができ、いい機会になった。年齢は違うものの、比較的生徒の層に近い附属校の卒業生や他校での取り組みなどを聞くことで、自分たちの学校では何ができるのかを考えることができた。その中でも、次年度からは今年まで

以上に ICT の活用を考えていかないといけない。実践例が少ない ICT 活用例と情報モラルの話を知ることができたので、次年度に活かしていきたい。

P

一年間共に学んできた同期の先生方の振り返りを聞き、特にこれからの抱負について聞くことができたことが良かった。一人ひとりの目標がその一人の目標ではなく、それぞれがつながりをもった目標であり志となるようにしたいと感じた。将来振り返った時に、そのきっかけとなったのが教師塾だったと言えるように、つながりを保ち、教育につなげていくチャンスを見つけない。